

平成 30 年 10-12 月期中小企業景気動向調査結果

業況 DI は 4.5 ポイントの上昇

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の平成 30 年 10-12 月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：平成 30 年 11 月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業 2,000 社
- ・回答数（率）：1,033 社（51.7%） ＊詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象への郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）＊による分析

※ 業況等について、「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	362	65.8%
建設業	250	138	55.2%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	533	44.4%
合計	2,000	1,033	51.7%

2. 調査結果

（1）総合

	平成 30 年				平成 31 年	
	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
業況 DI	▲19.1	▲15.9	▲17.0	▲12.5	▲15.4	▲22.0
売上 DI	▲18.2	▲15.8	▲12.9	▲6.7	—	—
採算 DI	▲25.4	▲20.7	▲22.1	▲21.4	—	—

総合の業況 DI は、前期比 4.5 ポイント上昇の▲12.5 となった。

経営状況では、売上 DI は前期比 6.2 ポイント上昇の▲6.7、また、採算 DI は同 0.7 ポイント上昇の▲21.4 となった。

今後の業況 DI を見ると、3 ヶ月後は現在比 2.9 ポイント低下の▲15.4、半年後は同 9.5 ポイント低下の▲22.0 を見込んでいる。

(2) 業種別特徴

<製造業>

	平成 30 年				平成 31 年	
	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
業況 DI	1.9	3.0	0.8	6.1	▲3.9	▲10.4
売上 DI	▲5.6	▲1.4	0.3	5.8	—	—
採算 DI	▲11.1	▲7.4	▲6.6	▲10.9	—	—

製造業の今期の業況 DI は、前期比 5.3 ポイント上昇の 6.1 となった。経営状況では、売上 DI は、前期比 5.5 ポイント上昇の 5.8、採算 DI は同 4.3 ポイント低下の▲10.9 となった。「パートタイム最低賃金 UP が厳しい。」といった声が聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 10.0 ポイント低下の▲3.9、半年後は同 16.5 ポイント低下の▲10.4 を見込んでおり、「自動車部品加工で製造業は海外移管されている。現状の売り上げがいつまで継続するかは不透明。早急に他業界新規顧客開拓の必要あり。」「7～9 月期の好調な受注状態が来年 3 月期まで続きそうである。加工（外注）先が少なくなり、部品加工の依頼先が減少しており、納期管理が難しい。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況 DI は以下の通り。

	平成 30 年				平成 31 年	
	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
一般機械	21.3	24.4	13.8	14.8	4.6	0.0
電気機械	▲8.1	▲14.9	▲18.1	▲3.7	1.2	▲13.8
輸送用機械	▲3.2	▲3.0	6.3	3.1	▲12.5	▲17.5
その他	▲2.2	3.9	0.8	7.8	▲8.7	▲11.8

中分類で見ると、一般機械は前期比 1.0 ポイント上昇の 14.8、電気機械は同 14.4 ポイント上昇の▲3.7、輸送用機械は同 3.2 ポイント低下の 3.1 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は一般機械が現在比 10.2 ポイント低下の 4.6、電気機械が同 4.9 ポイント上昇の 1.2、輸送用機械は同 15.6 ポイント低下の▲12.5、半年後は一般機械が同 14.8 ポイント低下の 0.0、電気機械が同 10.1 ポイント低下の▲13.8、輸送用機械は同 20.6 ポイント低下の▲17.5 を見込んでいる。

<建設業>

	平成 30 年				平成 31 年	
	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
業況 DI	0.7	0.0	2.3	8.8	9.8	▲3.8
売上 DI	▲1.5	▲15.4	1.6	9.4	—	—
採算 DI	▲7.6	▲9.6	▲9.4	▲1.4	—	—

建設業の今期の業況 DI は、前期比 6.5 ポイント上昇の 8.8 となった。経営状況では、売上 DI は前期比 7.8 ポイント上昇の 9.4、採算 DI は同 8.0 ポイント上昇の▲1.4 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 1.0 ポイント上昇の 9.8、半年後は同 12.6 ポイント低下の▲3.8 を見込んでいる。「前回と同様に人手不足、これに尽きます。外注単価は上がり続け、受注単価は変わらずの苦しい局面だと感じています。」「人材の能力が業績の善し悪しを、大幅に左右しています。」のほか、「会社全体、組織での目標管理が徹底しだして、その効果が少しずつではあるが、結果に反映されつつあり、これが利益増加につながっている。」「業績好の理由は、会社全体で売上を伸ばし原価を抑えた。今後の見通しも明るくなるよう、全員で努力していく。」といった声も聞かれた。

＜商業・サービス業＞

	平成 30 年				平成 31 年	
	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
業況 DI	▲37.5	▲32.7	▲34.6	▲30.8	▲29.7	▲34.8
売上 DI	▲30.6	▲25.9	▲26.1	▲19.6	—	—
採算 DI	▲39.0	▲32.7	▲36.5	▲34.0	—	—

商業・サービス業の業況 DI では、前期比 3.8 ポイント上昇の▲30.8 となった。

経営状況では、売上 DI が前期比 6.5 ポイント上昇の▲19.6、採算 DI は同 2.5 ポイント上昇の▲34.0 となった。「同業者が多い。価格競争がきびしい。若い人のネット利用増加。そのような中、来客 1 人 1 人を大切に接客しています。」「価格が量販店と差がある為、工事やサービスなどで補っていかないと厳しい。雇用を増やしたいが資金の面で、現状維持しかないと思っている。」といった声も聞かれた。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は現在比 1.1 ポイント上昇の▲29.7、半年後は同 4.0 ポイント低下の▲34.8 を見込んでいる。「材料費が値上がりした為、10%程値上げいたしました。今の所客足には影響は無い様ですが、この先は見通し不明です。」「景況感が今、小企業にも波及効果が現れている所、先行きは不透明。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の業種別の業況 DI は以下の通り。

	平成 30 年				平成 31 年	
	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
卸売業	▲30.7	▲23.4	▲21.4	▲18.0	▲30.0	▲32.0
小売業	▲48.8	▲45.8	▲48.0	▲48.4	▲46.8	▲49.5
飲食店	▲45.1	▲23.4	▲36.8	▲41.7	▲40.3	▲39.4
サービス業	▲18.3	▲22.9	▲20.1	▲5.8	3.7	▲8.8

業種別では、卸売業は前期比 3.4 ポイント上昇の▲18.0、小売業は同 0.4 ポイント低下の▲48.4、飲食店は同 4.9 ポイント低下の▲41.7、サービス業は同 14.3 ポイント上昇の▲5.8 となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後では卸売業が現在比 12.0 ポイント低下の▲30.0、小売業は同 1.6 ポイント上昇の▲46.8、飲食店は同 1.4 ポイント上昇の▲40.3、サービス業は同 9.5 ポイント上昇の 3.7、半年後では卸売業が同 14.0 ポイント低下の▲32.0、小売業は同 1.1 ポイント低下の▲49.5、飲食店は同 2.3 ポイント上昇の▲39.4、サービス業は同 3.0 ポイント低下の▲8.8 を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		平成 30 年				平成 31 年	
		1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
中規模	業況 DI	▲11.3	▲8.5	▲12.2	▲8.5	▲9.2	▲16.9
	売上 DI	▲9.0	▲11.0	▲9.7	▲0.2	—	—
	採算 DI	▲21.8	▲18.6	▲23.0	▲22.3	—	—
小規模	業況 DI	▲28.1	▲24.0	▲22.6	▲17.1	▲22.6	▲27.9
	売上 DI	▲28.7	▲21.1	▲16.5	▲14.0	—	—
	採算 DI	▲29.6	▲23.1	▲21.0	▲20.5	—	—

規模別の業況 DI は、中規模企業は前期比 3.7 ポイント上昇の▲8.5、小規模企業は同 5.5 ポイント上昇の▲17.1 となった。

経営状況では、中規模企業は売上 DI が前期比 9.5 ポイント上昇の▲0.2、採算 DI が同 0.7 ポイント上昇の▲22.3、小規模企業は売上 DI が同 2.5 ポイント上昇の▲14.0、採算 DI が同 0.5 ポイント上昇の▲20.5 となった。

今後の業況 DI については、中規模企業は 3 ヶ月後が現在比 0.7 ポイント低下の▲9.2、半年後が同 8.4 ポイント低下の▲16.9、小規模企業は 3 ヶ月後が同 5.5 ポイント低下の▲22.6、半年後が同 10.8 ポイント低下の▲27.9 を見込んでいる。

(4) 地区別特徴（業況 DI）

	平成 30 年				平成 31 年	
	1-3 月期	4-6 月期	7-9 月期	10-12 月期	1-3 月期 見込	4-6 月期 見込
横浜	▲13.4	▲15.6	▲12.0	▲14.9	▲14.6	▲20.2
川崎	▲12.7	▲12.6	▲21.9	▲10.0	▲7.9	▲13.8
横須賀	▲21.3	▲16.5	▲22.4	▲17.0	▲25.5	▲37.4
平塚	▲14.7	▲9.1	▲15.0	▲12.1	▲17.9	▲31.1
藤沢	▲35.8	▲17.2	▲17.1	▲18.4	▲12.9	▲15.0
相模原	▲15.6	▲15.8	▲7.4	▲4.2	▲13.8	▲19.4
厚木	▲12.4	▲7.1	▲11.0	▲3.8	▲9.6	▲15.5
足柄上・西湘	▲37.3	▲33.9	▲34.7	▲16.5	▲24.7	▲28.7

今期の地区別の業況 DI は、川崎地区（同 11.9 ポイント上昇の▲10.0）、横須賀地区（同 5.4 ポイント上昇の▲17.0）、平塚地区（同 2.9 ポイント上昇の▲12.1）、相模原地区（同 3.2 ポイント上昇の▲4.2）、厚木地区（同 7.2 ポイント上昇の▲3.8）、足柄上・西湘地区（同 18.2 ポイント上昇の▲16.5）の 6 地区で上昇となり、横浜地区（前期比 2.9 ポイント低下の▲14.9）、藤沢地区（同 1.3 ポイント低下の▲18.4）の 2 地区で低下となった。

今後の業況 DI は、3 ヶ月後は、横浜地区（現在比 0.3 ポイント上昇の▲14.6）、川崎地区（現在比 2.1 ポイント上昇の▲7.9）、藤沢地区（同 5.5 ポイント上昇の▲12.9）の 3 地区で上昇となり、横須賀地区（同 8.5 ポイント低下の▲25.5）、平塚地区（同 5.8 ポイント低下の▲17.9）、相模原地区（同 9.6 ポイント低下の▲13.8）、厚木地区（同 5.8 ポイント低下の▲9.6）、足柄上・西湘地区（同 8.2 ポイント低下の▲24.7）の 5 地区で低下となった。

半年後は、藤沢地区（現在比 3.4 ポイント上昇の▲15.0）の 1 地区のみで上昇となり、横浜地区（同 5.3 ポイント低下の▲20.2）、川崎地区（同 3.8 ポイント低下の▲13.8）、横須賀地区（同 20.4 ポイント低下の▲37.4）、平塚地区（同 19.0 ポイント低下の▲31.1）、相模原地区（同 15.2 ポイント低下の▲19.4）、厚木地区（同 11.7 ポイント低下の▲15.5）、足柄上・西湘地区（同 12.2 ポイント低下の▲28.7）の 7 地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先
 （公財）神奈川産業振興センター（KIP）
 (Kanagawa Industrial Promotion Center)
 事業部経営総合相談課 藤田
 TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194
 URL <http://www.kipc.or.jp/> E-mail: soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (平成30年10月～12月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		362	138	101	222	72	138	533	1033
業況判断	現在の業況	6.1	8.8	-18.0	-48.4	-41.7	-5.8	-30.8	-12.5
	3ヶ月後の業況	-3.9	9.8	-30.0	-46.8	-40.3	3.7	-29.7	-15.4
	半年後の業況	-10.4	-3.8	-32.0	-49.5	-39.4	-8.8	-34.8	-22.0
経営状況	売上	5.8	9.4	-4.0	-31.7	-27.8	-6.3	-19.6	-6.7
	採算	-10.9	-1.4	-21.8	-34.5	-52.1	-32.6	-34.0	-21.4
	引き合い／客数	6.1	18.8	-5.0	-37.2	-29.6	-12.3	-23.5	-7.4
	単価	-7.2	2.2	0.0	-27.3	-20.8	-25.7	-20.8	-12.9
	仕入価格	-52.1	-44.2	-55.0	-47.9	-76.4	-23.0	-46.8	-48.3
	資金繰り	-10.0	1.4	-20.8	-35.2	-34.7	-15.9	-27.4	-17.4
	残業	2.2	3.6	-1.0	-12.1	-9.9	-18.2	-11.3	-4.5
	設備稼働	-0.3	5.3	-	-	-	-	-	1.2
前期経営実績	売上水準	5.0	-1.4	-18.8	-46.8	-40.3	-11.0	-31.5	-14.7
	利益水準	18.3	15.9	-1.0	-32.7	-27.8	-14.1	-21.2	-2.3
	在庫	5.5	-0.8	20.0	1.8	1.4	-28.9	-2.3	0.6
	投資	-	2.3	-1.0	-18.4	-13.0	-23.5	-15.8	-7.8
	雇用状況	-31.5	-57.8	-20.0	-14.2	-35.2	-11.8	-17.5	-27.8

(注)DI(Diffusion Index)：各項目ごとのプラス要素の比率からマイナス要素の比率を差し引いた数値

参考＜前回調査＞ 景気動向調査 (平成30年7月～9月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				小計	総合
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		
回収数		366	128	84	227	58	144	513	1007
業況判断	現在の業況	0.8	2.3	-21.4	-48.0	-36.8	-20.1	-34.6	-17.0
	3ヶ月後の業況	-2.2	-5.5	-27.4	-49.3	-40.0	-7.6	-32.8	-18.2
	半年後の業況	-9.1	-11.1	-28.6	-48.6	-36.4	-7.5	-32.8	-21.4
経営状況	売上	0.3	1.6	-15.5	-40.7	-36.8	-3.7	-26.1	-12.9
	採算	-6.6	-9.4	-27.7	-39.4	-49.1	-31.9	-36.5	-22.1
	引き合い／客数	6.3	6.3	-12.0	-51.3	-41.1	-17.5	-34.3	-14.3
	単価	-4.4	1.6	-9.8	-30.1	-31.6	-24.1	-25.3	-14.2
	仕入価格	-49.9	-39.1	-52.4	-47.8	-64.9	-24.3	-44.0	-45.5
	資金繰り	-12.1	-4.7	-25.0	-32.7	-41.1	-12.5	-26.7	-18.5
	残業	0.3	-5.5	-8.4	-18.7	-14.8	-13.9	-15.2	-8.3
	設備稼働	-0.5	-	-	-	-	-	-	-0.4
前期経営実績	売上水準	3.6	-0.8	-14.3	-48.0	-24.1	-15.4	-30.7	-14.4
	利益水準	18.1	14.1	1.2	-32.6	-14.0	-9.2	-18.5	-1.0
	在庫	7.0	-2.5	17.1	8.0	-1.7	-34.8	-3.2	0.6
	投資	0.8	-1.7	-3.7	-19.4	-21.8	-23.1	-18.2	-9.1
	雇用状況	-27.7	-48.0	-20.5	-12.2	-38.6	-11.3	-16.3	-24.5

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		198	164	67	71	287	246	552	481
業況判断	現在の業況	6.1	6.1	10.6	7.0	-23.1	-39.8	-8.5	-17.1
	3ヶ月後の業況	-1.5	-6.8	13.8	5.9	-19.9	-41.0	-9.2	-22.6
	半年後の業況	-7.1	-14.5	6.2	-13.2	-29.5	-41.0	-16.9	-27.9
経営状況	売上	12.1	-1.8	11.9	7.0	-11.9	-28.3	-0.2	-14.0
	採算	-13.7	-7.4	3.0	-5.6	-34.4	-33.5	-22.3	-20.5
	引き合い／客数	9.1	2.4	25.4	12.7	-12.7	-36.1	-0.2	-15.7
	単価	-6.6	-8.0	7.5	-2.9	-14.9	-27.5	-9.2	-17.2
	仕入価格	-50.5	-54.0	-35.8	-52.1	-42.9	-51.2	-44.8	-52.3
	資金繰り	-10.7	-9.2	0.0	2.8	-25.4	-29.7	-17.0	-17.9
	残業	5.6	-1.9	4.5	2.8	-9.6	-13.3	-2.4	-7.0
	設備稼働	1.5	-2.5	9.1	1.5	0.0	0.0	3.4	-1.3
前期経営実績	売上水準	5.6	4.3	1.5	-4.2	-24.1	-40.0	-10.3	-19.7
	利益水準	21.7	14.1	23.9	8.5	-13.0	-30.7	4.0	-9.6
	在庫	6.7	3.9	0.0	-1.7	-1.4	-3.3	1.7	-0.7
	投資	3.1	-3.7	7.6	-3.1	-9.0	-23.7	-2.6	-13.9
	雇用状況	-33.5	-29.0	-66.7	-49.3	-22.3	-11.9	-31.7	-23.3

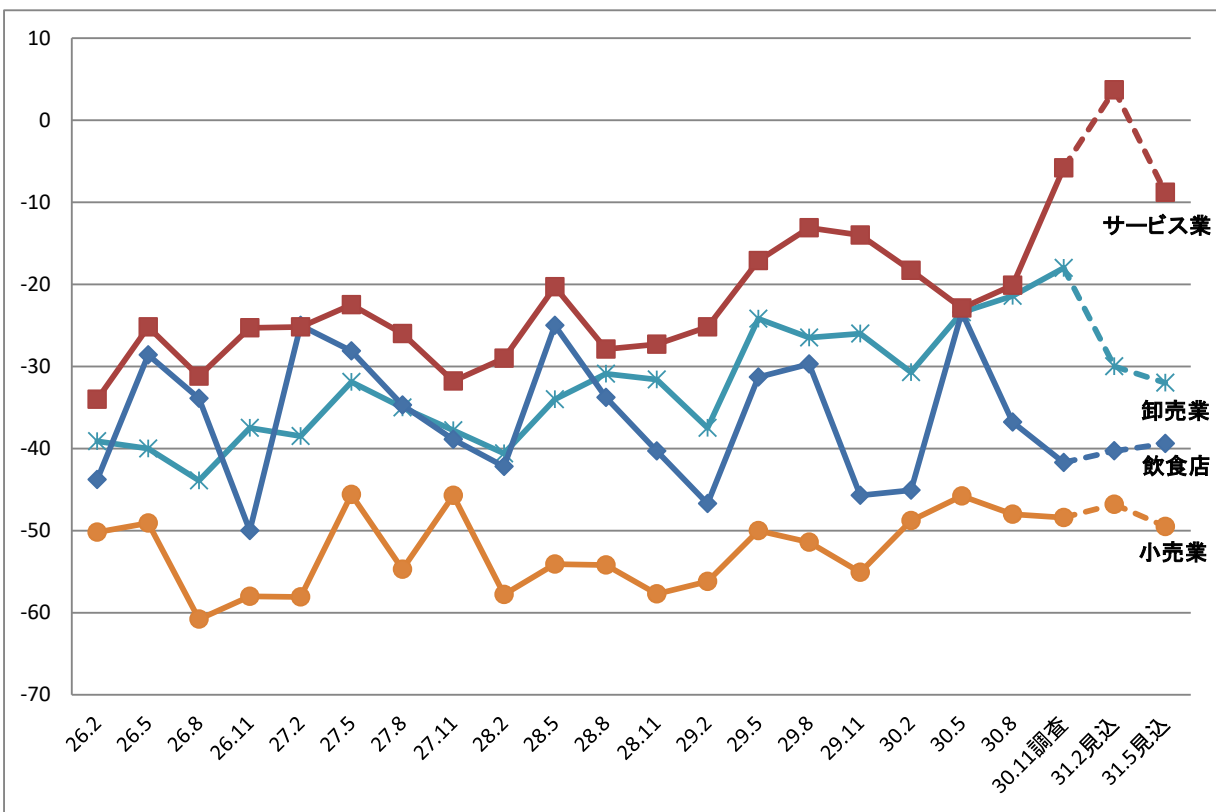
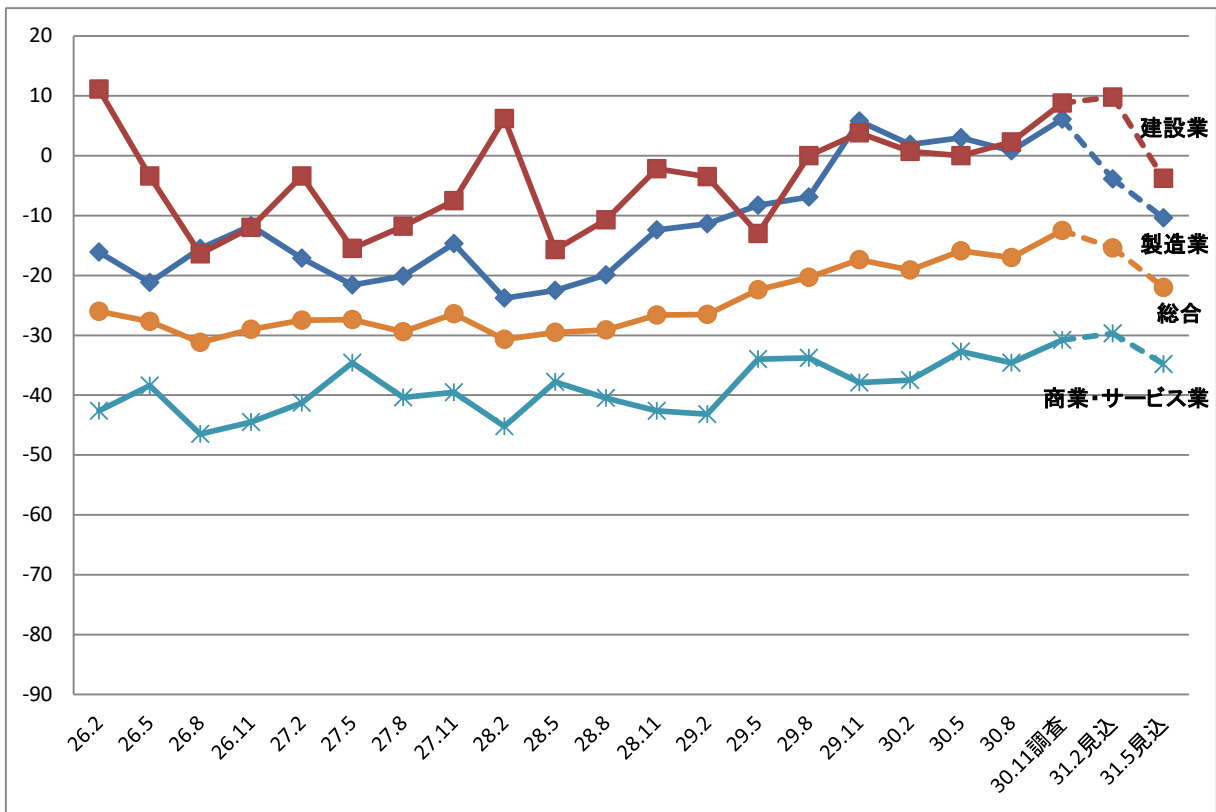
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湖	総合
回収数		269	140	113	107	104	96	105	99	1033
業況判断	現在の業況	-14.9	-10.0	-17.0	-12.1	-18.4	-4.2	-3.8	-16.5	-12.5
	3ヶ月後の業況	-14.6	-7.9	-25.5	-17.9	-12.9	-13.8	-9.6	-24.7	-15.4
	半年後の業況	-20.2	-13.8	-37.4	-31.1	-15.0	-19.4	-15.5	-28.7	-22.0
経営状況	売上	-7.5	-9.4	-18.3	0.0	-23.1	0.0	1.9	7.1	-6.7
	採算	-18.7	-22.9	-33.3	-23.8	-26.5	-20.4	-15.2	-13.4	-21.4
	引き合い／客数	-5.6	-7.1	-19.1	-4.8	-20.2	-4.2	-4.8	5.1	-7.4
	単価	-12.7	-7.9	-17.0	-13.5	-12.5	-13.8	-13.5	-14.4	-12.9
	仕入価格	-47.9	-48.6	-46.8	-57.1	-41.3	-51.1	-42.3	-52.0	-48.3
	資金繰り	-16.5	-15.7	-20.4	-14.3	-22.1	-13.7	-11.5	-27.3	-17.4
	残業	-9.0	1.4	-8.9	1.0	-12.5	1.1	1.0	-4.1	-4.5
	設備稼働	-4.0	0.0	-14.9	0.0	4.7	13.5	9.4	10.8	1.2
前期経営実績	売上水準	-18.6	-10.8	-21.6	-15.9	-14.4	-3.2	-6.7	-20.2	-14.7
	利益水準	-0.4	0.7	-11.7	-2.8	-2.9	3.1	9.6	-18.4	-2.3
	在庫	5.2	0.0	2.8	-1.0	-6.1	-1.1	-1.0	-1.0	0.6
	投資	-8.8	-9.4	-12.7	-7.9	-8.9	-6.4	-2.9	-3.0	-7.8
	雇用状況	-24.2	-40.4	-27.9	-32.4	-24.3	-23.4	-30.4	-20.4	-27.8

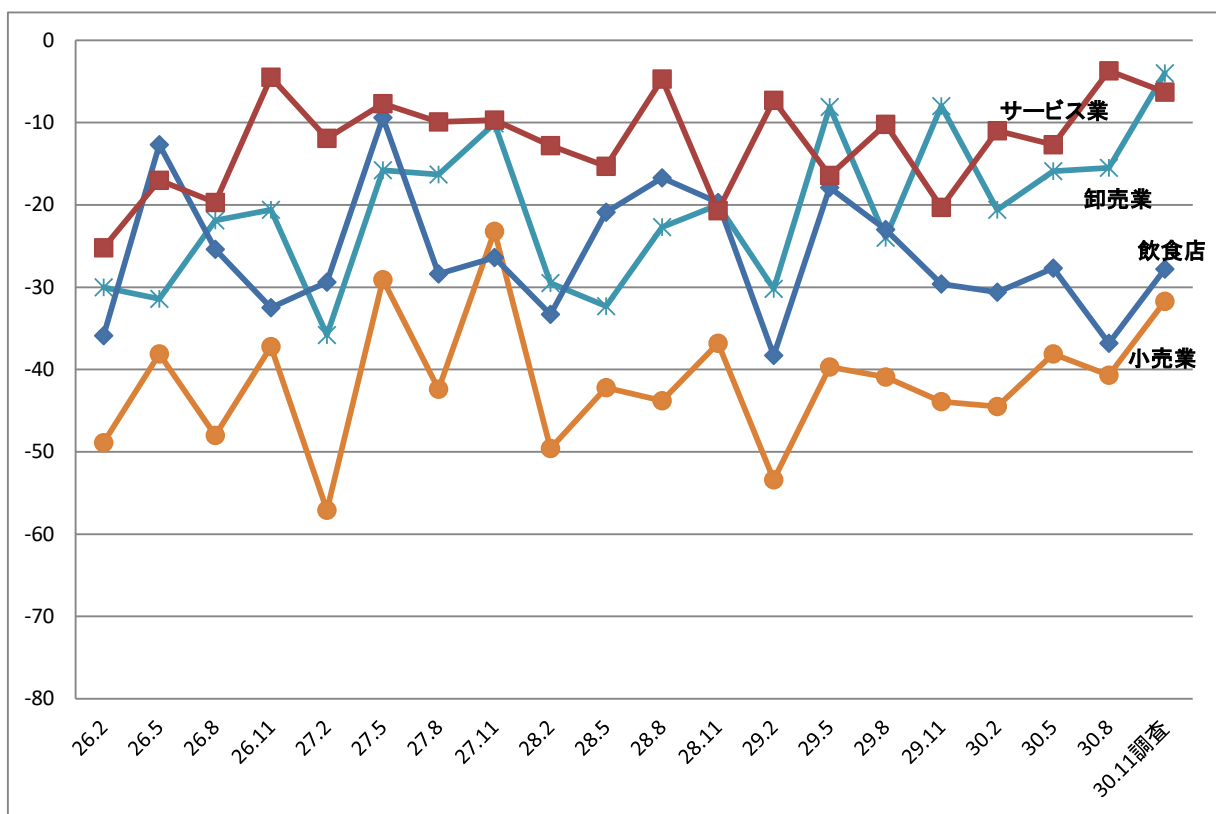
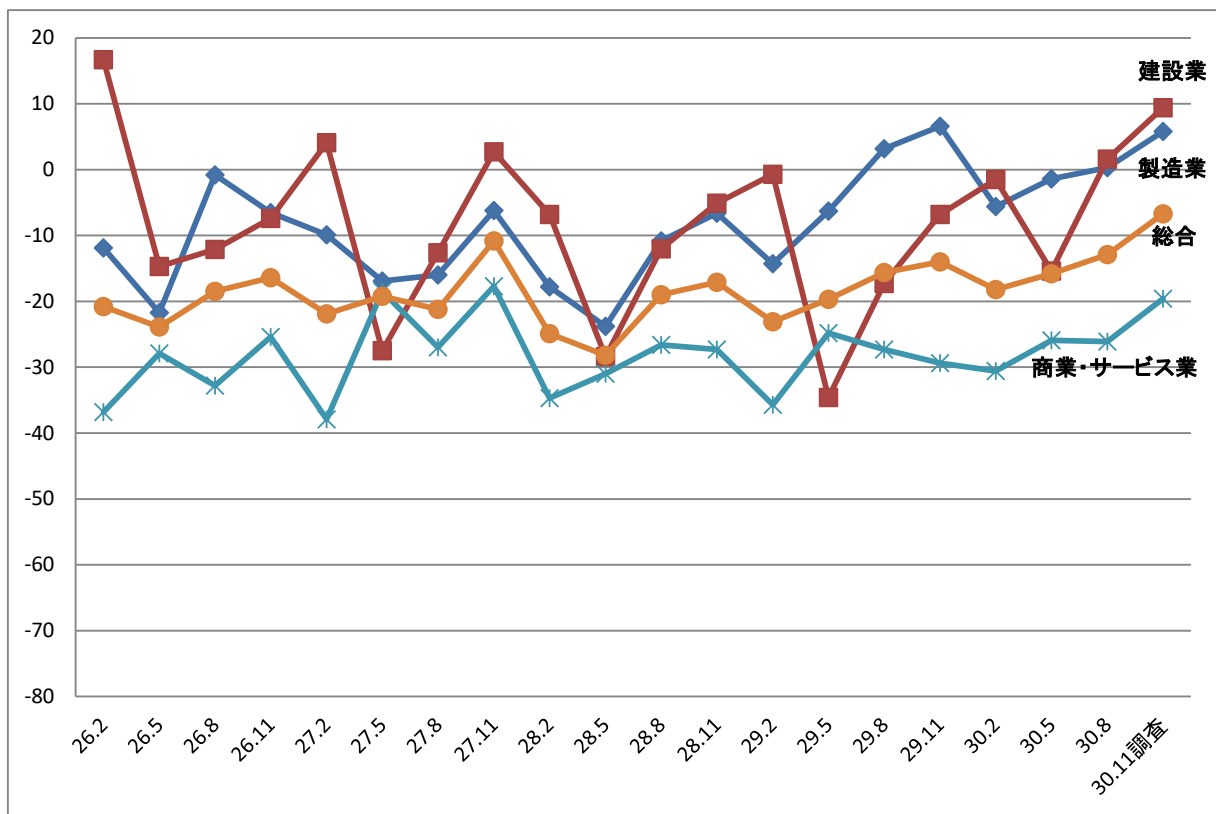
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		88	81	64	129	362
業況判断	現在の業況	14.8	-3.7	3.1	7.8	6.1
	3ヶ月後の業況	4.6	1.2	-12.5	-8.7	-3.9
	半年後の業況	0.0	-13.8	-17.5	-11.8	-10.4
経営状況	売上	10.2	3.7	-9.4	11.6	5.8
	採算	-1.1	-6.3	-28.1	-11.7	-10.9
	引き合い／客数	6.8	9.9	-3.2	7.8	6.1
	単価	-4.5	-7.5	-15.9	-4.7	-7.2
	仕入価格	-46.6	-53.2	-40.3	-60.9	-52.1
	資金繰り	-8.0	-8.8	-20.3	-7.1	-10.0
	残業	11.4	2.5	-4.8	-0.8	2.2
	設備稼働	9.2	-1.3	-7.9	-2.3	-0.3
前期経営実績	売上水準	16.1	-1.3	10.9	-1.6	5.0
	利益水準	26.1	12.3	12.7	19.4	18.3
	在庫	7.2	3.8	5.2	5.6	5.5
	投資	6.8	-12.8	3.2	1.6	0.0
	雇用状況	-30.7	-35.4	-31.7	-29.5	-31.5

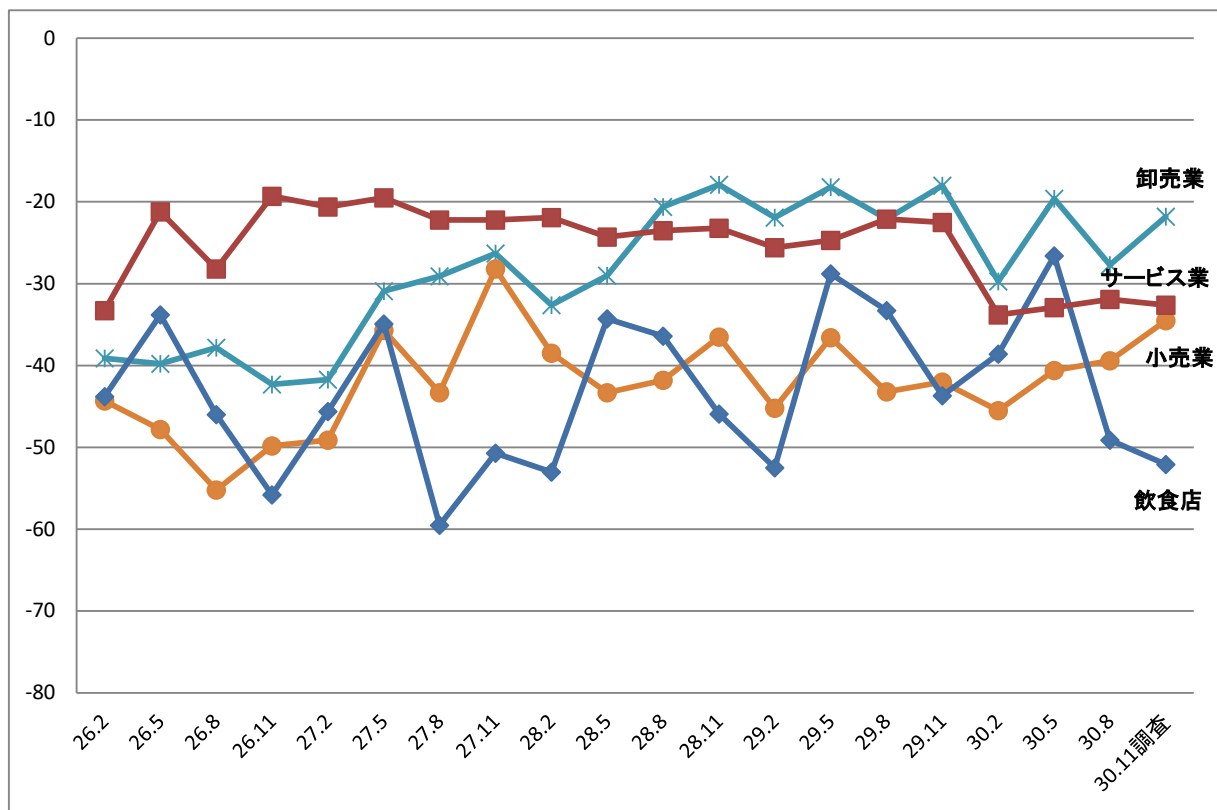
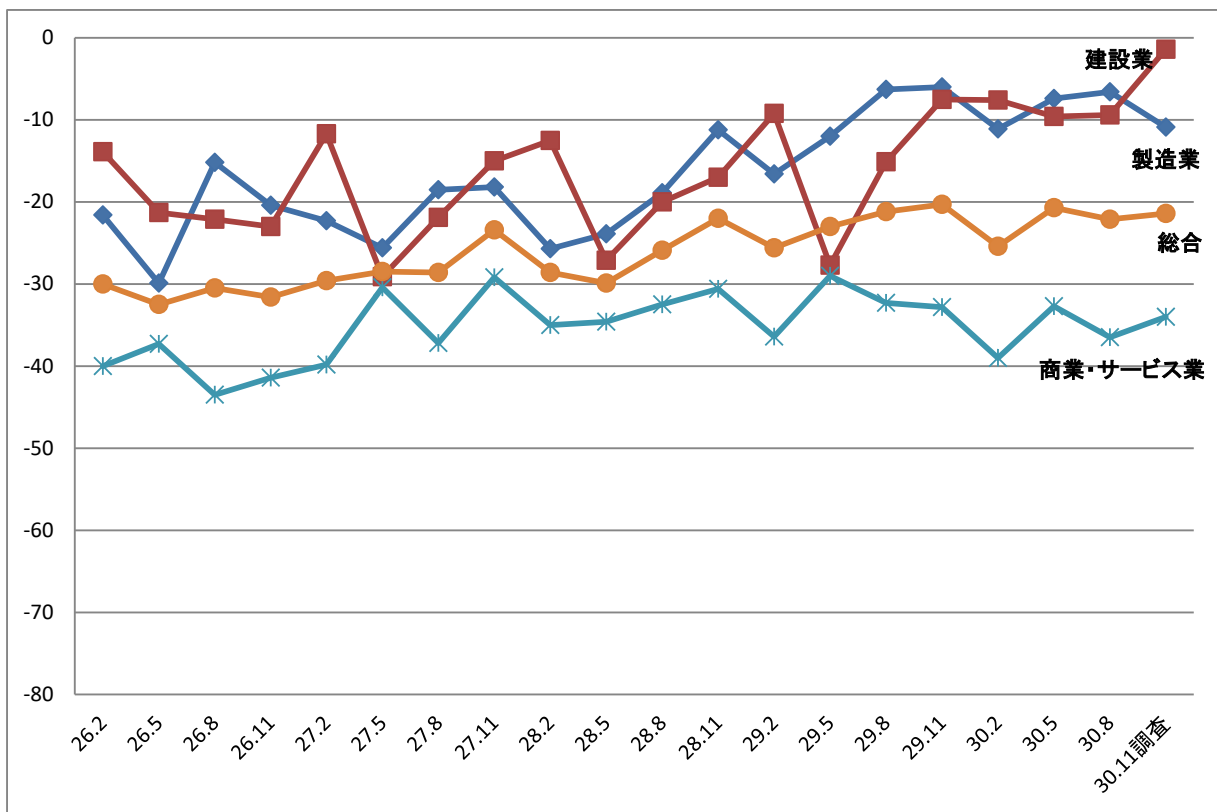
業況DIの推移



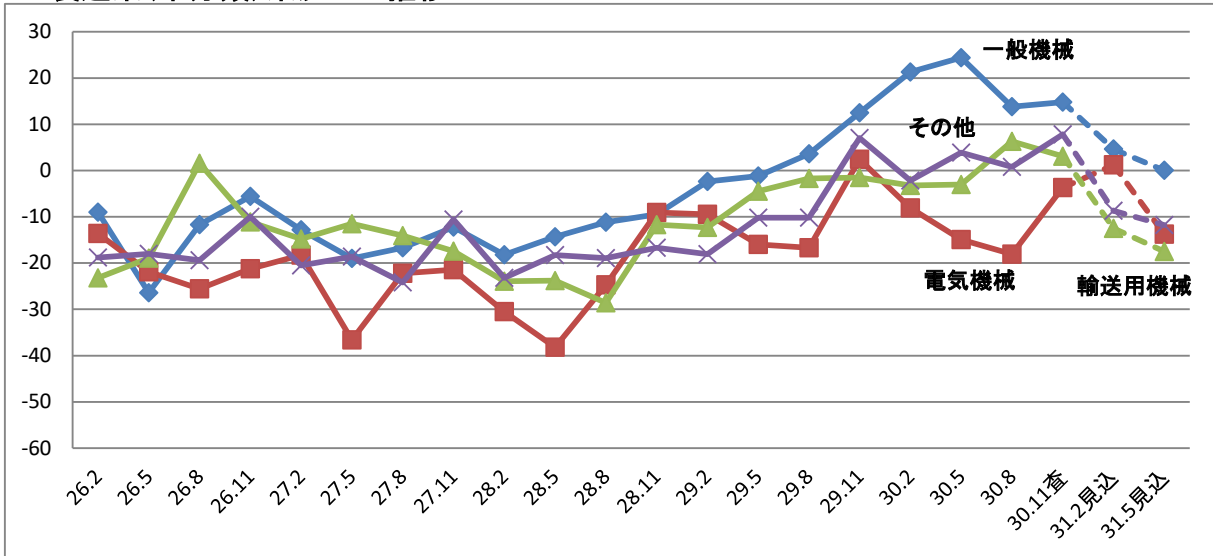
売上DIの推移



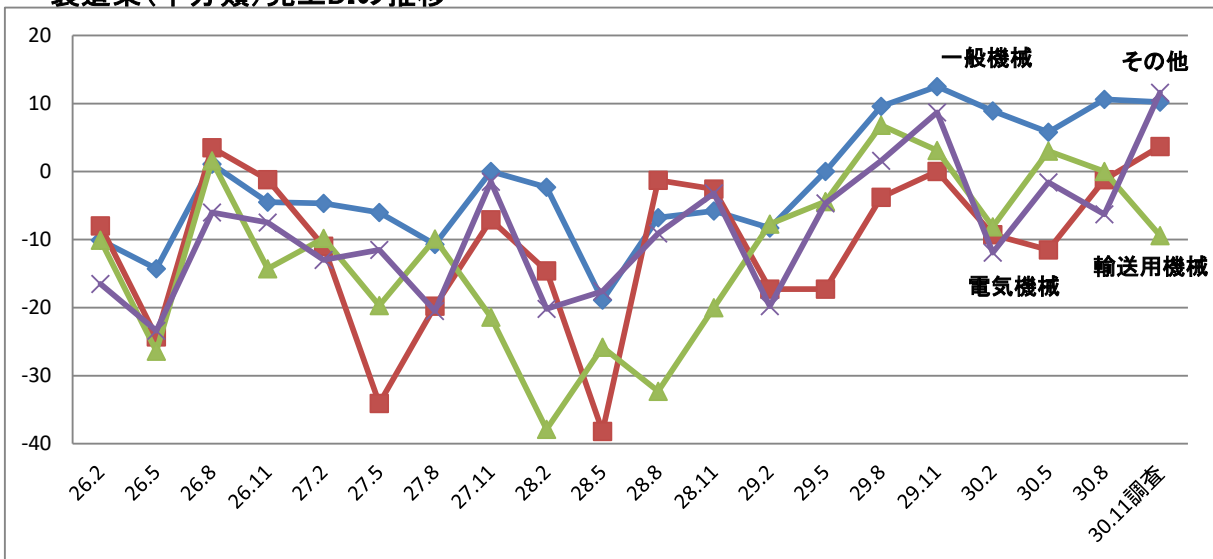
採算DIの推移



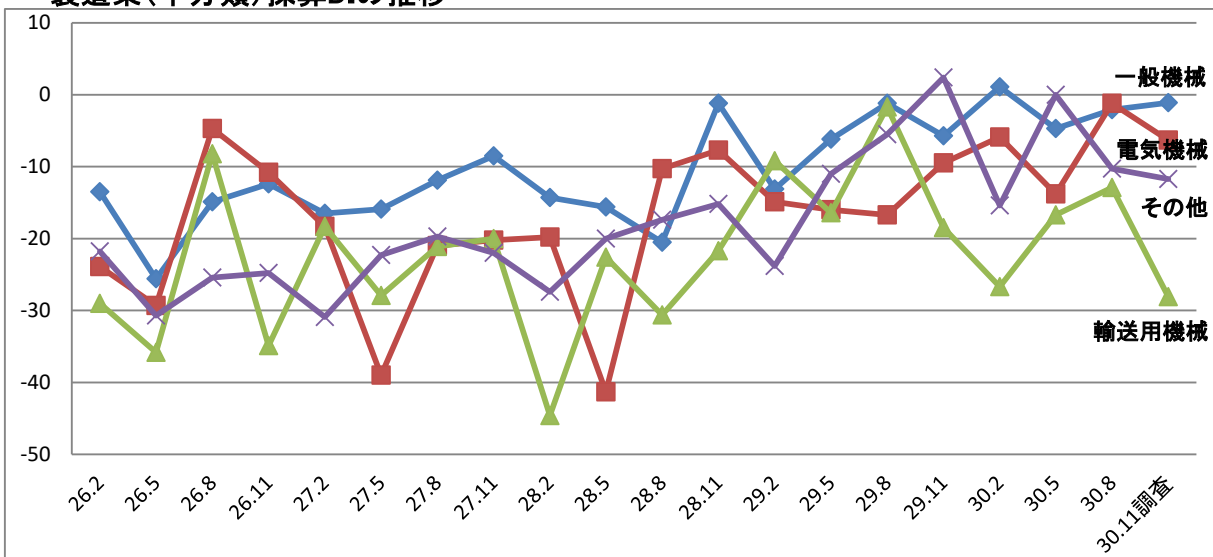
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



<製造業>

引き合いは少しずつ増えているが、価格が安い為、合意に至る案件に限られてしまう。人件費、材料費、等々の費用増で利益は減り、設備投資に対しても消極的状態。さらに、雇用がなかなかうまくいかず、仕事はあるが人手不足により、毎月やりきれない状況にある。
29年度に比べて30年度は受注も減り単価も下がっている。
販売価格が上がらないのに、最低賃金がかかなりの勢いで上がっていて厳しい。
パートタイム最低賃金UPが厳しい。
人手不足で、業況好転せず。
引き合いはあるので、余程のことがない限り順調に推移すると思う。長期的には、人手不足が影響する可能性が高い。
相変わらず悪いながらも仕事は有る。
金融機関の協力もあって、「資金繰りのために安値受注に走る。」ような必要もなくなって来た。このため今期は「減収増益」になりそう。
経営者の能力以上に、経営の舵取りがこれまで以上に敏感に適切に必要なになっている時代になったと感じる。全てにおいてバランス感覚の優れた人しか残れない時代であることは間違いない。
目先の引合いはあるが、3ヶ月先以降の予測が客先に打診しても良い回答が出ないところが多い。逆に、自動車部品は新規含め数年先の見込みまでであるが、他製品の動向がどうなるか分からず、設備投資にしても、判断に迷う。また、人材育成が思う様に進まず、労務量含め高い資材価格上昇により、厳しい状況。
自動車部品加工で製造業は海外移管されている。現状の売り上げがいつまで継続するかは不透明。早急に他業界新規顧客開拓の必要あり。
お客様の受注状況がよく無いです。海外で作らせている状況が見受けられます。
7～9月期の好調な受注状態が来年3月期まで続きそうである。加工（外注）先が少なくなり、部品加工の依頼先が減少しており、納期管理が難しい。

<建設業>

前回と同様に人手不足、これに尽きます。外注単価は上がり続け、受注単価は変わらずの苦しい局面だと感じています。
技術者の引き抜きが多い。新規に採用しようとする、人材バンクにかなり費用をとられてしまい、我々小さい会社には負担が大きい。
人材の能力が業績の善し悪しを、大幅に左右しています。利益が取れない。
人がいなくて受注ができない。
若年層の採用が難しく、離職者も多い。
会社全体、組織での目標管理が徹底しだして、その効果が少しずつではあるが、結果に反映されつつあり、これが利益増加につながっている。
景気というよりも社内の体制が整って来た感。スタッフみなやる気にあふれている。
業績好の理由は、会社全体で売上を伸ばし原価を抑えた。今後の見通しも明るくなるよう、全員で努力していく。
マンション販売好調による工事量増大。

<卸売業>

個人店の売上げが下がる。一方、最低賃金の上昇・新消費税率に対応する為のシステム変更費用。
仕入価格の上昇分を、販売価格に反映させきれない為、収益力が低下。
商品単価上昇により更に業況悪化の要因になりそうです。先行きはなかなか見通せず不安。
原材料費、人件費、運賃がのきなみ上昇している。価格転嫁も難。
鋼材の価格が高止まりしており、大口の需要家（自動車メーカーetc.）に対する鉄鋼メーカーの価格は我々の価格が上がった1/3位しか上昇していない為に我々は価格を上げられなく苦戦！
景況感が今、小企業にも波及効果が現れている所、先行きは不透明。

<小売業>

消費者のマインドが悪い。特に必要性の高い物品を販売している訳ではないので、経営がきびしい、いつまで続けられるのか全くわからない。
売上は上がっているが、経費（人件費）等が高くなっている。
価格が量販店と差がある為、工事やサービスなどで補っていかないと厳しい。雇用を増やしたいが、資金の面で現状維持しかないと考えている。
ネット販売、大型店の影響で小売が厳しく難しい仕事しかなくなっている為、スキマの業界でやっていくしかないと思う。
同業者が多い。価格競争がきびしい。若い人のネット利用増加。そのような中、来客1人1人を大切に接客しています。
仕入先の変更と仕入のやり方の工夫・値付けの仕方の工夫によるところが好調の大きな要因。パートの時給だけ上がって控除額が上がらないため意図的に人手不足がつくられている。パートはもっと働きたがっているし、生活費ももっと必要としている。主婦パートの声は、時給アップより控除額の引上げを願っている。
仕入単価の上昇を、販売価格に転換するのが難しく、どのタイミングで値上げをするのか課題です。又、顧客の高齢化、若い人のネットショッピングへの流れで、打撃を受けていると感じています。
業績は、不調。要因については、売上げの減少が大きな要因。今後の見通しは、厳しさは変わらない。特に心配となるのは、来年10月からの消費税増税により更なる消費の減少が懸念される。
飲食店の不振が売上に響いている。消費増税前のかけ込み、その後の落ち込みが予測されるので慎重に見守りたい。
客数の減少で商品の売上が悪い。
地方の活性化が何度も言われていますが、時給や時短の政策を発表してから地方の小売者の業績は悪化の一途です。そして10月に時給上げと現状は益々廃業の店舗が増加する。更に軽減税率導入による消費負担の増大による摩擦が加速されると感じる。地方の活性化には小売店の力が重要なのではないか。軽減税の導入は見送るべきだ。
酷暑続きの8月は仕方ないと考えつつも、秋になっても改善の気配なし。お客様を含め周辺の事業所の方々も異口同音に人手不足、原価高、売上不振の三拍子の声が多い。

<飲食店>

人手不足による残った人の労働過多。仕入が全体的に値上がってきている。
人手不足のために人件費高騰、仕入材料の値上がり、来年の消費税10%での改正で軽減税率について全く対処の仕方が良くわからない。
人手不足の為、中々売上げをのばせない。人件費も高騰している。
HPの充実を図り、診断士の指導をあおいで客単価4500円として経営したことで、ここにきて少しずつ売上が増えてきたと思う。しかし仕入の値により利益が少なく資金繰りは余りよくない。カード利用が多いため。
人材不足でお客様を取り逃がしている。周りに競合店が増え、安売りに負けている。
人材不足が続き、将来の雇用が不安である。

<サービス業>

人手不足等により受注出来ない現状です。安定して人材が確保出来れば、引き合いは多いので受注につながり、売上増になると思う。
ほとんどの仕入れ、光熱費、サービス費等の値上りに対し、業種的に値上げも出来ない。又、難しいと思う。消費税upの前に値上りも考えているが、怖い。
売上げが伸び悩んでいるのに、パートの最低賃金が上がり過ぎるととても困る。
材料費が値上がりした為、10%程値上げいたしました。今の所客足には影響は無い様ですが、この先は見通し不明です。
今年の夏の酷暑の為、売上げが減少した。
お客様の休みに合わせた来店受入れ体制をつくり、実践しています。
仕事の受注をしても人員不足で事務職まで動員して現場をしのいでいる。人手の確保が出来れば好況に転じられると思う。
最低賃金が毎年上がり利益率が大変悪い。人手不足が深刻であり、高齢化対策が問題である。従業員の高齢化で生産性の低下に対応する問題に、苦勞している。